

青 い 鳥

〔11月号〕

～ 子どもが育つ魔法の言葉 ～

子どもは日々成長しておりますが、特に運動会を終えてからの成長には目を見張るものがあります。お気づきになられたでしょうか。

何気ない子どもとの会話や生活の中で、大人がごく普通に話す言葉や当たり前のことを普通に実行することは、子どもにとって自然に学べるお手本となるもので、とても大切なことなのです。ですから「子にとって親は鏡」であり「親は子の鏡」となる。ということではないのでしょうか。

「良い子に育てたい」と思う気持ちは、誰しもが願っていることだと思います。そこで今回は子どもを育てる子育ての知恵としてPHP文庫から刊行されております『子どもが育つ魔法の言葉(ドロシー・ローノルト著、レイチャル・ハリス著)』を紹介させていただきます。

当たり前のことがごく自然に出来るように、そして子どものよりよき手本となれますように、この魔法の言葉を一度お読みになられてはいかがでしょうか。

ここに魔法の言葉の一部を掲載させていただきます。

- 「けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる。」
- 「トゲトゲした家庭で育つと、子どもは乱暴になる。」
- 「不安な気持ちで育てると、子どもは不安になる。」
- 「『かわいそうな子だ』と言って育てると、子どもはみじめな気持ちになる。」
- 「子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子どもになる。」
- 「親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる。」
- 「叱りつけてばかりいると、子どもは『自分は悪い子なんだ!』とってしまう。」
- 「励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる。」
- 「広い心で接すれば、キレる子にはならない。」
- 「誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ。」
- 「愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ。」
- 「認めてあげれば、子どもは自分が好きなる。」
- 「見つめてあげれば、子どもはがんばり屋になる。」
- 「分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ。」
- 「親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを学ぶ。」
- 「子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ。」
- 「優しく思いやりを持って育てれば、子どもは優しい子に育つ。」
- 「守ってあげれば、子どもは強い子に育つ。」
- 「和気あいあいとした家庭で育てば、子どもはこの世はいいところだと思えるようになる。」

いかがでしたか。普通に感じられることであっても実際に行うことは難しいものですね。